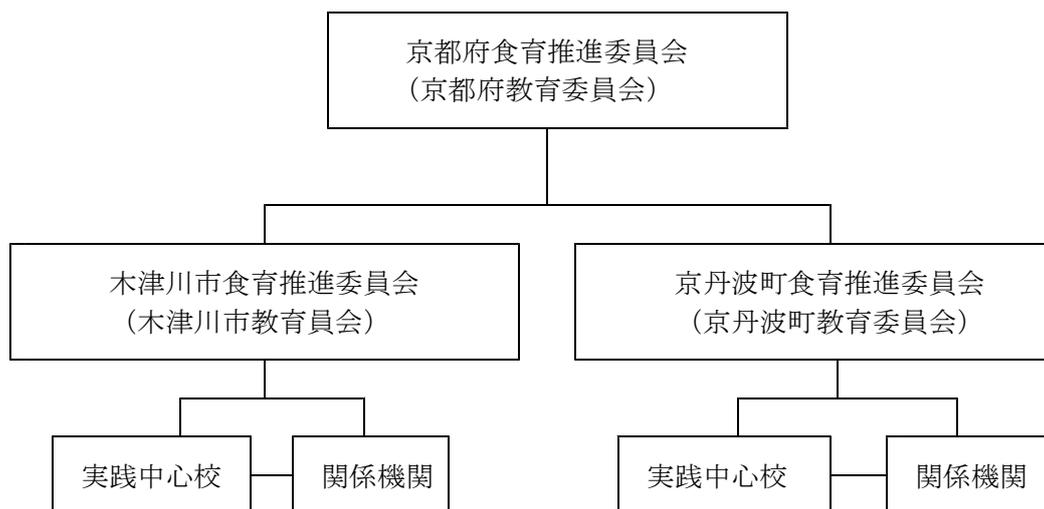


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	京都府
推進地域名	木津川市、京丹波町

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について (京都府)

テーマ	教育活動全体を通じて食育を推進するための方策
	<p>(1) 府内の各学校での組織的・計画的な食育を推進するための方策の検討を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科等における食に関する指導の充実を図るための支援を検討する。 ホームページの充実など効果的な情報の配信について検討する。 小・中学校における発達段階に応じた系統的な指導の充実を図る。 校内研修会の実施、教科横断的な食育の実施など事例を数多く盛り込んだ食育参考資料集(平成22年度作成)の活用促進を行う。 <p>(2) 食育研修会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校給食実施校だけでなく学校給食未実施の中学校や高等学校も含めすべての学校で、児童生徒の望ましい食習慣の形成を目指し、研修会を通して府内全域の食育を推進する。 推進地域の研究成果を府内全域へ波及する。 <p>(3) 研究報告冊子の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> 推進地域における研究成果等を全校に紹介する。

テーマ1～3に共通する具体的計画

- (1) 京都府食育推進委員会の開催
- ア 学識経験者、実践中心校(校長・栄養教諭)、京都府給食研究会会長、京都府学校給食会事務局長、各教育局担当指導主事、京都府教委育委員会で構成する京都府食育推進委員会を設

置した。

第1回京都府食育推進委員会 平成24年9月27日（木）

第2回京都府食育推進委員会 平成25年2月20日（水）

イ 推進地域の（木津川市、京丹波町）の取組状況の報告と指導助言

ウ ホームページの充実など効果的な情報の配信や小・中学校における系統的な指導の充実を図るため、中学校に焦点をあてた中学校食育研修会の開催など、各学校における計画的な食育の推進や家庭や地域と連携した効果的な指導の在り方等について検討を行った。

エ 南北2箇所中学校研修会実施し、中学校の食育担当者を対象に講演や実践報告等を行うことにより、中学校における食に関する指導についての理解を深めるとともに食に関する指導計画に基づいた学校教育活動全体を通じた食育の推進を図った。

中学校食育研修会（南部会場） 平成25年1月25日（金）

中学校食育研修会（北部会場） 平成25年1月30日（水）

- ・甲子園大学栄養学部准教授博士（医学）管理栄養士木村祐子氏による講演をとおして、クラブ活動をする生徒に対する栄養管理の方法や成長期における発育・発達と食の重要性について学んだ。
- ・実践報告をとおして、中学校における食育の取組の実際について学び、今後の実践の参考とした。
- ・演習を通して、五感を使った効果的な食の指導について実際に体験することにより、今後の取組の参考とした。
- ・研究協議を通して、各学校における様々な取組や課題の解決方法などを交流し、今後の参考とした。

オ 各種研修会等において、食育参考資料集の活用方法等の周知を行う。

(2) 食育研修会の開催

平成25年2月20日（水）

- ・公益財団法人奈良屋祈念杉本家保存会常務理事兼事務局長・料理研究家・きょうと食（しょく）いく先生（京都府認定）杉本節子氏による講演をとおして、京商家に伝わる質素儉約の食のならわしや京都の伝統郷土食にこめられた先人の知恵、感謝の心、またマナーの大切さなどについて学んだ。
- ・推進地域での実践発表をとおして、事業の成果を府内に普及するとともに各学校における家庭・地域と連携した食育の推進を図った。

(3) 研究報告冊子の発行

推進地域の実践研究の成果についての報告書を作成し、府内の学校等に配布するとともにホームページに掲載し、家庭・地域と連携した学校教育活動全体を通じた食育の推進を図った。

○ 木津川市・京丹波町食育推進委員会への参加等

両推進地域に設置する食育推進委員会の委員として府教委保健体育課の指導主事が参加し、指導的役割を果たすとともに、日常的に該当する教育局（山城・南丹）が指導助言及び連絡調整を密に行い、円滑な事業の推進を図った。

本事業における評価指標と考察

京都府としては設定せず。

本事業の成果

- (1) 両推進地域においては児童生徒の実態を踏まえ、栄養教諭を中心としながら全教職員の共通理解のもと、計画に基づいて家庭・地域との連携を図った多彩な取組を実施することにより、児童生徒や保護者の食への興味・関心を高めるとともに郷土への理解を深めたり、地場産物の供給体制を整備し学校給食への地場産物の使用割合をあげるなどの効果をあげることができた。
また、こうした推進地域での取組を実践発表や報告書等により広く普及することにより各学校での食育推進の一助とした。
- (2) ホームページの充実など効果的な情報の配信や小・中学校における系統的な指導の充実を図るため、南北2箇所中学校に焦点をあてた中学校食育研修会を開催するなどにより、各学校における計画的な食育の推進のための支援を行った。

今後の課題(今回の事業を実施した結果、新たに見えた課題)

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校のすべての学校で、全教職員の共通理解のもと計画的な食育が推進できる支援が、引き続き必要である。